
無限暴走航路

0シュウト0

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無限暴走航路

【Nコード】

N2763Z

【作者名】

0シユウト0

【あらすじ】

ユーリが出てこない無限航路の小説

主人公が転生系です。故にパロディ、ご都合大量

始章 ロウズ編

惑星ロウズ…

夜、空に浮かぶポイドゲート。僕はそれを見上げていた。

いつか、大銀河を渡るOGドッグになる事を夢見て…

始章・ロウズ編

ロウズ周辺宙域

「ちっ…早打ち男は嫌われるよ！」

一隻の輸送船を改造した艦、デイジーリップを操る女性が叫ぶ

それを追うように三隻の警備船、レベツカ級が追いかけてレーザーを撃つ。

そのうち一発が翼のように広がった部分に被弾する

「ッ…やべえええ！」

爆発し、その余波でロウズへと落下していく。

「…え」

その落下していく先には…銀髪の少年がいた。

二章 ロウズ準備編

…少年の目の前には巨大な船が落ちている。

轟音と共に落下してきたそれは少年の脇を通過してその巨体を地に落としていた。

「いたたた…」

船から這い出てくる女性

それに少年は駆け寄った…が、少年は倒れてしまった。

「え！ちよつとアンタ！」

女性はその少年を抱き起こす。

そしてショートする船内へと運んでいったのだった

少年 side

「知らない天井だ…」

目

覚

める俺

いやぶざけてる場合じゃないな。

無限航路やっていたら突然画面が光り輝いて、気がついたらベッドの上だった。

つかめっちゃ暗いのはなんでなん？

「気がついたかい？」

声のほうを見るとトスカさんがいた。…ここは叫ぶか

「打ち上げさん!？」

「いや、微妙に違う…いや合ってるのか？」

俺の一言で首を傾げる

つかアレか？ゲームの中に放り込まれたとかか？

デジモンワールド的な!？

…もつこのネタわかるのいないか…

side out

???side

「エラー!エラー!」

「カンソクシャニイジヨウアリ」

「コチラカラノカイニユウケツケズ」

「ウワガキモフカ」

「イレギュラー！イレギュラー！」

「ツイセキシヤトウニユウフカノウ」

side out 少年 side

さて、どっか騒がしいみたいだが…

まあ状況をまとめるとだ。

「確かに飛ぶだけはいけるねえ」

「大気圏離脱したらトトラスに向かいますよ。」

航行に支障が出ない部分からパーツ集めて船を直した。

被弾したところはバラし、気密を保つため穴をふさぎ、デイジーリ
ップは推進装置とブリッジのみの形になった。

トスカさんは渋っていたが、ロウズで一生過ごす気ですかと聞いた
ら渋々了承してくれた。

てかまさか修理出来るとは驚いた。

頭の中にあつたユーリの記憶まじばねえ「さあて…いこうか！」

次の瞬間…意識を失った。

ま…た…か…よ…

side out

side in

「子坊。起きなよ」
身体が揺れ、意識が戻る。
するとどうだろう。

目の前に『売却済み』とかかれた。デイジーリップがあるではないか。

…確かデイジーリップってエキストラモードでOGだったけ…

…そして気づくとトスカさんに肩に担がれていた。

「ちったあ輸送船を買う足しにはなるだろうさ。設計図買わないとねえ」

寂しそうにトスカさんは笑う。

…そして俺は

将来来るであろう。トスカ必死イベント回避を予期して内心ガッツポーズしていた。

んでトトラスの設計図屋

絶望するトスカを横目に二つの設計図を手にする俺

なんで絶望してるかというと、デイジーリップは解体費と売却費が同額だったからだ。

なんでも船を売却する場合、
売却費 - 解体費という数式が出るらしい。

本来はデিজリーリップはマイナス値になるところだったが、ドロイドのお情けで0になったのだ。

ちなみに俺は自前の200000Gでお買い物である。
周回プレイのままらしく、高額を所有していた

「夜も末だねえ」

といいつつカップ酒を飲む

…手持ちないのかと聞いたら宵越しの金はもたねえ！とか言われた。
カップ酒代は俺が出しました。さて、入手した設計図はアルク級と
ジュノー級である。

性能的には大差はない。大マゼランと比べれば微々たるものである。
ただしジュノー級のほうが貨物室一個分くらい配置しやすい。
ただし戦闘艦としてはアルク級が若干高いのである。

とりあえずアルク級を作るかな。

俺はトスカさんを残して軌道エレベーターに乗った
んで飛んで次の日

「しっかしよくまあこんな人材を集めたねえ。一通りいるじゃないか。」

「トトラスだけで半分ですがね。ロウズ以外の惑星なら集めるのはなんとかかりました。」

総人数150人を雇うことに成功した。

ロウズ宙域では宇宙に出れる人は決まっているため、数を集める事はできたのだ。

「しかもあんな大金持ってたなんてねえ、子坊を侮っていたよ」

「俺は…ゼロですよ。ゼロ」

某強化人間研究所の最初の男、もしくは反逆の人の名を名乗る。

「ゼロねえ…まるで偽名だねえ。相当やましいことがあるのかい？」

姐さんの眼が冷たい！

「さて、出発すよ〜！とりあえず目指せ3000撃破！」

「…」

まだ冷たいよ…

ちなみに何故3000というとただ単にエルメラーダ級が欲しいだけである。

ロウズの時点でエルメラーダ級…ロマンです

まあネージリッドの最新鋭艦がいまの時点で入手可能かは知らない

けどね。

ゲームの中では確認済み。あれは面倒だったぜ。ストーリー無視
してずっとロウズで名声稼いでたからなあ。まあおかげであの眼抉
られるイベントでグランヘイムが自分の船の上のほうに止まるのが
わかった。

いいのか悪いのか…

そんな訳で空間通商管理局でランキングを確認できるため、おそら
くエルメラード級やバロンズイウス級が手に入る。高額でかさばっ
て使いづらいたろうけど、モジュールも手に入るしな。

「あ。トスカさん。副官お願いしてもいいですか？いくら雇えたとい
ってもトスカさんが一番信用できますし。」

「構わないよ。プーよりましだしね」

ちよ。それ別の人の台詞っ

ともかく、司令艦橋へとあがると職歴から信用できそうな連中…よ
うはその筋のリーダーや専門家が集まっていた

まあ俺が艦橋要員で集めたんだけどね！

「艦長、聞いていたより若いわね。」

シアンさん、女性、24歳

元アナウンサーなのでメインオペレーターをしてもらってる

「でもいいんじゃない？美形よ？」

航海長

ヒメさん、女性、24歳

シアンさんの同級生で航路地図会社の社長していたらしい。

「よろしく頼むぜ！艦長！」

砲雷班長

ジランさん。男、28歳

ロウズ警備船の砲雷士してたらしい

「艦橋での挨拶は済ませたツスよ」

レーダー管制長

マドさん、20歳、男性

ジランさん同様元ロウズ警備船員

「インフラトンインヴァイターも最高潮だったよ。」

機関長

レインさん、69歳

実はかつてデラコンダがまだOGドッグしてる時の機関長だったらしい。

…大物かも

でも艦橋要員じゃないのに何故いるし

「俺らはまだ仕事ないから挨拶に来たぜ。艦長」
整備長

タカギさん、男、30歳

元ロウズ警備船の整備士

「出航してからが仕事アルからね。」

シエフ

ワンさん、42歳

家族率いて参加の料亭の人

…つか心読んだ？

「ま。搬入作業も終わりですからもう出航しますよ。」

「了解。空間通商管理局に連絡いれます。」

船が動き出すためにその巨体を揺らす。

「よし、飛ベッ」

その一言を合図に俺たちは宇宙へと旅立った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2763z/>

無限暴走航路

2011年12月11日14時53分発行